

2限目 入退院支援・再入院予防ワーキング

# 知ってほしい 再入院のリアル

## (病院側・在宅側)

徳山中央病院 地域連携室

慢性疾患看護専門看護師

松村 直子

周南西部地域包括支援センター

主任ケアマネジャー

中村 里美

## 病院側

こないだやっと退院したのに、また入院になった…  
なんで何回も再入院しちゃうんだろう…

あんな状態で退院したら、そりゃすぐまた入院するよね…  
再入院するのはしょうがない…

## 地域側

# 知ってほしい、再入院のリアル

## 高齢者の再入院率の概況

疾患カテゴリ	再入院率（期間）	主な特徴・リスク因子	References (PMID)
心不全	約 <b>6.6%</b> (30日) 約 <b>21%</b> (1年)	高齢、NYHA高値、併存疾患（CCI高値）、退院時薬剤（ $\beta$ 遮断薬、利尿薬等）、 <b>在宅医療支援クリニック利用で再入院率低下</b>	36650335 33853998 26497394
呼吸器疾患 （COPD,肺炎など）	約 <b>18%</b> （COPD 30日） 肺炎は施設間でばらつき	高齢、認知症合併、複数呼吸器疾患、ADL低下、 <b>退院後ケア不足</b>	31882961 28719692 33572128
整形外科疾患 （骨折など）	約 <b>5.4%</b> （30日：大腿骨骨折） 認知症合併例で11.5%	認知症合併、ADL低下、骨粗鬆症、 <b>退院後のリハビリ・ケア不足</b>	31882961 33572128 36324547
認知症	約 <b>8.3%</b> （30日） 認知症なしは <b>4.1%</b>	合併症多い、ADL低下、 <b>退院後ケア不足</b> 、整形外科・呼吸器疾患で再入院率上昇	31882961 33572128

# 知ってほしい、再入院のリアル

## 再入院をひきおこす要因

### 高齢者の再入院リスク要因

#### 基礎疾患の 重症度・多さ

がん、心疾患、慢性呼吸器疾患、認知症、骨折などの基礎疾患を複数併存している状態は更に再入院率が高まる。

PMID: 31917197.

#### 機能的・社会的 脆弱性

フレイル、認知機能障害、聴覚障害、ポリファーマシー、独居や低所得なども再入院リスクを高める。

PMID: 32684534.

#### 退院後の支援体制 の不十分さ

急性期・慢性期病床ともに、十分な退院支援を行うことで再入院率を低下させることが明らかになっている。

PMID: 40329673. PMID: 32684534.

知ってほしい、再入院のリアル

## 入院関連機能障害

(hospitalization-associated disability, HAD)

直接的には運動障害を来さない疾患（肺炎，心不全，悪性腫瘍など）

のために入院したときに発症する，

（過剰な）安静臥床（すなわち不動）を原因としたADL障害もしくは  
身体機能低下／認知・精神機能低下のこと

# 知ってほしい、再入院のリアル 入院関連機能障害（HAD）の実態

日本の高齢者では、**HADの発生率は30～37%**と高く、特に心不全患者や高齢者一般で顕著である。

Takahashi et al. Circ J. 2024 Apr 25;88(5)

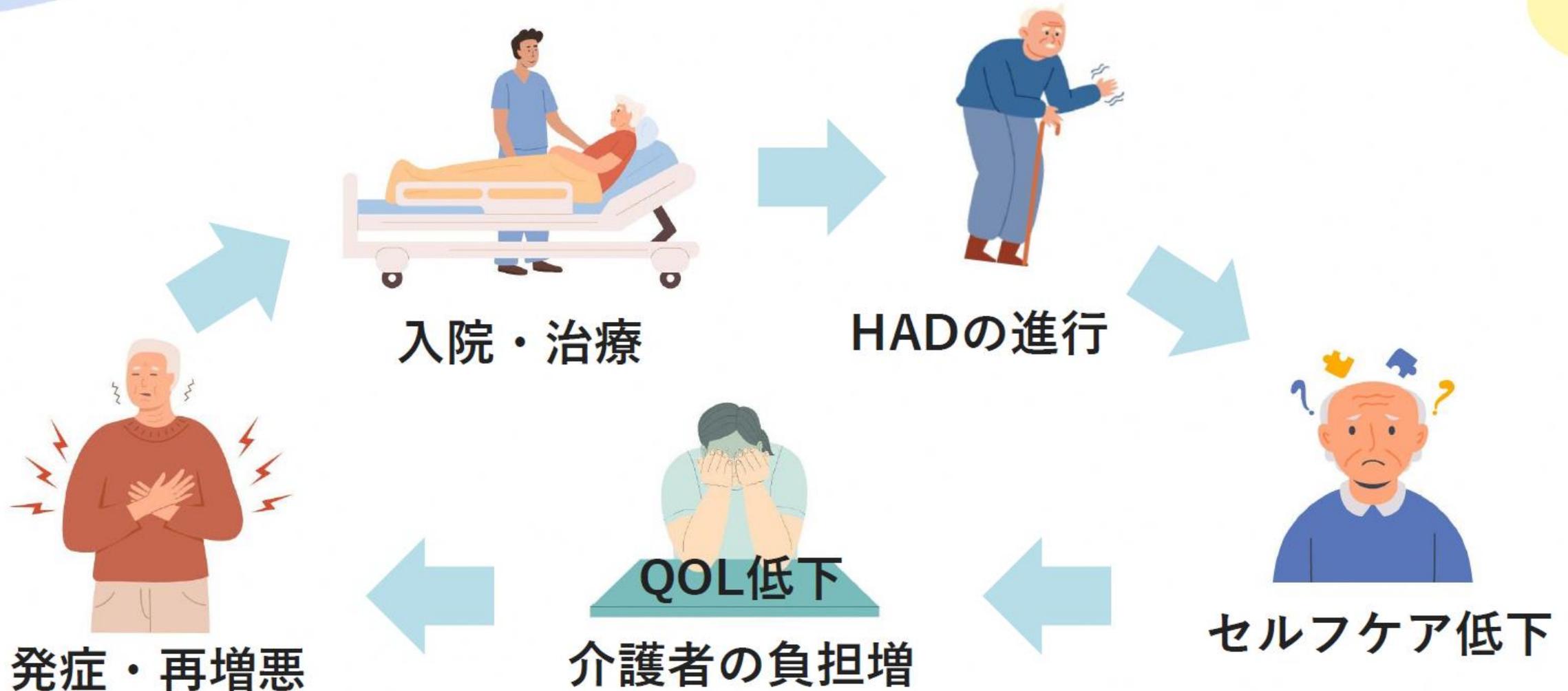
入院関連機能障害（HAD）の主なリスク因子は、**高齢、フレイル（身体的機能低下）、認知機能障害、うつ症状、併存疾患の多さ、長期入院、入院中の不動・活動性低下、せん妄、栄養不良、看護師配置不足**などが挙げられる

Hao et al. Ageing Res Rev. 2024 Nov;101:102516.

Chen wt al. Int J Geriatr Psychiatry. 2022 Mar;37(3):10.1002/gps.5687.

Hori et al. Circ J. 2023 Jul 25;87(8):1112-1119.

# 知ってほしい、再入院のリアル 高齢者の再入院がもたらすもの



# 何のための再入院予防？

できるだけ  
本人の  
「普通の暮らし」  
を守るため

できるだけ本人の「普通の暮らし」を守る  
そのためには？

再入院・施設入所リスクを防ぐ



廃用・重度化予防

- 本人の「よくなりたい」という意欲を引き出す
- 廃用予防(運動、リハビリ)
- 医学的管理(通院・服薬)
- 栄養管理(食事・水分)を指導

自宅での生活が成り立っている



生活支援・自立支援

- こんな生活をしたいを実現するため、できないところだけを支援
- 制度になくても生活に役に立つものを見つける、探す、創り出す

【出典】豊明市作成資料



# 再入院予防ワーキング

令和7年8月27日、11月26日、令和8年1月29日

- ・再入院のリアルな現状を語ろう
- ・再入院予防の原因を考えよう 防げる?防げない?
- ・防げる原因 なぜ防げない?「なぜなぜ分析」
- ・専門職みんなで連携して目指す姿とは?
- ・退院後の服薬、食生活について知ろう
- ・めざす姿の実現に向けて、何に取り組む?



# 再入院 とは

(本ワーキングにおける定義)

前回退院した日を起点として、  
一定期間内（主に30日または42日以内）に、  
前回と関連のある病気で  
再度入院すること

「再入院予防」とは  
上記のような再入院を予防すること



# 再入院の原因

## 防げる

- 本人、家族、支援者の意識
  - ・入院している方が安心
  - ・本人の気持ちが置き去り
- 本人や家族に病識がない、病気の理解が不十分
- 薬の飲み忘れ、管理困難
- 食生活（水分）、栄養状態の悪化
- かかりつけ医、多職種との連携不足（情報共有不足）

## 防げない

- 介護力がない
- 経済的な問題
- 家の環境
- セルフケアができない

どちらもいえない

# 防げる原因なのになぜ？ ～なぜなぜ分析～

入院しているほうが安心という、  
「本人」「家族」「支援者」の意識



病院は

- 専門職が多く、常時人の目があるので、緊急時対応してもらいやすい
- 3食きちんと出してもらえらるから栄養面で安心
- バリアフリーで室温も管理されていて過ごしやすいし、安全に過ごせる
- 施設に入れるまでのつなぎになる…など



…一方で、本人自身が「どうしたいのか？」が置き去りになっている場合もある

# 防げる原因なのになぜ？ ～なぜなぜ分析～

本人や家族の病気に対する理解や認識が低い

認知機能の  
低下



本人の病気  
に対する受容不足

目先の欲望に  
負けてしまう



病状に対する  
誤解

# 防げる原因なのになぜ？ ～なぜなぜ分析～

## 薬の飲み忘れ、管理困難

### 本人側の要因

服薬の必要性、理解が乏しかった？

- ・本人の「できる」という言葉をうのみにした？
- ・家族との連携不足？
- ・在宅支援者への引継ぎがあいまい？
- ・そもそも管理困難な処方になっている？

### 病院側の要因

- ・病院からの情報を信頼してそのまま受け取った？  
(ケースに入れたら自分で飲めますよ、とか)
- ・退院後、内服できているかチェックする機会がない、チェックしていない

### 在宅側の要因

# 防げる原因なのになぜ？ ～なぜなぜ分析～

## 食生活（水分摂取）管理不足、栄養状態の悪化

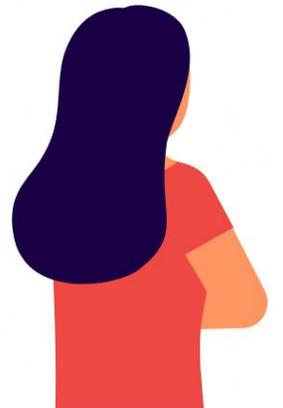
病院ほどの管理は  
そもそも無理



味が合わない  
配食を拒否する



お金が無い



家族の協力が  
困難

本人が「食べている、気をつけている」と言えば、それ以上確認できない、しない

# めざす姿

## 多職種でめざそう 退院1か月後を 自宅で 迎える



退院日をゴールにするのではなく…



退院日

退院1か月後を  
チームで見据える



★退院1か月後



# めざす姿の実現のために・・・

本人の暮らし  
をどう把握  
する？

自宅で  
何をモニタリング  
する？

多職種でめざそう

## 退院1か月後を自宅で迎える

本人や家族への  
指導内容は？

どういう時に  
多職種に頼る？  
報告する？



退院日をゴールに  
するのではなく・・・

退院1か月後を  
チームで見据える

退院日

★退院1か月後

退院前カンファ  
レンスで共有す  
ることは？

本人や家族に  
伝え続ける  
ことは？

自宅で服薬や  
栄養管理する  
ための現実的な  
方法は？

食事や服薬管理  
何ができる？

## できることから始めよう!

▶再入院予防ワーキングでは、引き続き方策を検討していく予定です。